



九州ルーテル学院大学3年生 熊本YMCAリーダー会会長 下田 大雅 さん

YMCAで仲間ができた

その柔らかい笑顔から受ける印象とは対照的に、リーダー名はとっても強そうな「タイガーリーダー」。下田大雅さんは、2020年12月からYMCAのユースリーダーとして活躍しています。「はじめて参加したキャンプで、“名前が大雅だからタイガーリーダーにしたら”と言われました。自分でもかっこいい名前だなと思って」とにっこり。大学生や専門学校生が中心となって活動しているユースリーダーは、YMCAに通う子どもたちと「子どもと大人」という「縦の関係」ではなく、年齢の近い「斜めの関係」で関わる役割を持っています。「きっかけは大学で見たキャンプリーダーの募集案内です。子どもが好きなので、参加してみようと思いました」。下田さんはシーズンキャンプや、月1回の野外活動クラブ例会で活動をはじめます。

一緒に活動するリーダーとは、キャンプ中に「もっとこうしたら面白いんじゃないか」とアイデアを出し合ったり、時には悩みを相談し合ったり。「仲間ができた」と思いました。だから続けることができたのかな」と下田さん。YMCAのキャンプという共通の目的で集まった同世代の存在は下田さんに大きな刺激を与えたようです。

自分を変えたリーダー活動

ある日、下田さんは障がいのある就学児に療育活動や安心できる居場所を提供する「放課後等デイサービス」のリーダー活動にも誘われます。大学で社

ユースが新たな価値を生み出す

会福祉学などを学んでいる下田さんは、「学びの実践になる」と参加を決めました。しかし、いざ現場に入ると大きな不安が下田さんを襲います。「分かっただけなのに、キャンプの時とは子どもたちとの関わり方が違うし、何より“発達支援※”という言葉の重みに負けてしまったんです。自分で大丈夫なのかと悩みました」。そんな下田さんを支えたのも仲間であるユースリーダーの存在でした。「他のリーダーたちが楽しそうに活動してるのを見ていたら、“自分も早く楽しめるようになりたい”って思えたんです。子ども一人ひとりとのかれあいを大切にするうちに、“子どもと一緒に遊ぶって楽しい”という根本的なところはキャンプと変わらないんだと気づきました」。今は、大学での学びも活かしなが、子どもたちと向き合うことができていると言います。

YMCA職員の「今、自分は何のためにここにいいのかを考えることで、ふるまい方が変わってくる」という言葉が印象に残っているという下田さん。「昔はただ子どもが好きだった。でも今は自分が思っている以上に子どもたちはリーダーのことを見ていると感じて、“自分が人として成長してないと失礼だ”と思うようになりました。だから、もっと正直であろう、もっと、誠意のあるふるまいができる人でいよう、という想いが強くなっています」と語ります。

※子ども一人ひとりの発達に即した多様な支援を行うこと

リーダー会会長の新たな挑戦

ユースリーダーたちが2021年度に挑戦したことの一つに「プラットフォーム」があります。これは不登校の子どもたちの居場所をつくらうというもの。「コロナの影響で不登校児が増えていると知って、自分たちにできないことがないかと皆で考えました」。全国YMCAの取り組み「ユースチャレンジ」からの助成に加え、クラウドファンディングにも取り組んで得た資金をもとに、1月と2月の計6日間にわたり学習支援や野外活動などの不登校児支援プログラムを実施しました。

YMCA職員のアドバイスや多くの人々の支援を受けながら、ユースリーダーたち自らが企画して実現したプラットフォーム。「参加した子どもが明るくなったと保護者の方から言われたのはうれしかったですね」。2022年度は2カ月に1回、年間を通して活動する予定です。「キャンプだったらグループをつくれれば自然と子ども同士で遊びだすけれど、プラットフォームにはそれが難しい参加者がいるんです。だから今年は子どもたち同士の関わりを増やしたい。子どもたちがチャレンジできる場にしたいと思っています」。

今年4月からは熊本YMCAリーダー会の会長を務めている下田さん。「新たな研修を企画したいと考えています。テーマはYMCAに直接関わる内容でなくてもいいんです。これから社会に出る学生が、社会課題などについて有益な情報を得られる。リーダー会がそんな役割も持つことができれば」。1年半前、YMCA活動に価値を見出した下田さんは今、YMCA活動に新たな価値を生み出そうと歩みをはじめました。



4月の野外活動クラブで子どもたちと

Pickup

4月4日(月)
熊本YMCA学院
2022年度入学式



4月13日(水)
社会課題解決に向けての
支援活動報告
熊本県知事を表敬訪問

4月1日(金)
YMCA職員入会式
会長の吉本貞一郎さん
が挨拶



I n f o r m a t i o n

行こう 見よう 深めよう

大学生・専門学校生が活躍 YMCAユースリーダー募集

1 3
4 11

学び
×
体験

YMCAには、子どもと関わるボランティア活動の機会がたくさんあります。新しい経験や出会いを通して自分自身の成長を目指してみませんか？教職を目指す人、子どもの成長に関わりたい人など、大歓迎です。

野外活動・キャンプ

子どもたちと共に野外活動を通して自然の豊かさを知り、仲間や新しい自分との出会いの中で生きる力を育みます。



因 野外活動クラブ(月1回の活動)、
シーズンキャンプ(長期休み期間の
様々なテーマのキャンプ)

こどもスポーツプログラム(水泳・体操・サッカー)

指導法研修があります。

因 幼児・小学生対象のスポーツスクールの指導補助
場 みなみ・ながみねファミリー・むさしセンター
回 平日・土曜日の3～5時間程度

ぶらっとほーむ(2022年から名称変更)

不登校児童、生徒が安心して過ごせる居場所をつくります。

場 YMCA本館など

回 7月10日(日)、8月8日(月)～12日(金)、11月20日(日)他

キャンプ・スポーツ
リーダー登録は
こちら▼



ぶらっとほーむ
リーダー登録は
こちら▼



5月28日～29日

5月の阿蘇ファミリーキャンプ ～SDGs農業・米作り編～

11 13 15

阿蘇
×
SDGs

今年で開設70周年を迎えるYMCA阿蘇キャンプがお届けする特別企画。5月のファミリーキャンプでは、田植え前の田んぼで泥んこバレーなどの泥遊びを行います。田園や用水路の生き物観察も楽しめます。夜は農家から米作りの話を聞き、翌日は手植えでの田植えを体験します。食事はもちろん美味しいお米です。米作りの奥深さ、そして楽しさ、やりがいを感じられる2日間です。



回 5月28日(土)～29日(日) 因 ご家族 費 12,000円/1名 ※「くもと再発見の旅」が適用されます(3,000円の割引と2,000円分の地域限定クーポン配布)。適用には条件があります。

回 7家族25名程度 場 YMCA阿蘇キャンプ Tel 0967-35-0124 担当:堤

7月22日～26日

のんびりスケジュールで 富士登山プログラム

3 13 15

富士山
×
登山

一生に一度は日本の頂、富士山へ。登山の経験がない方でも大丈夫。経験豊富なスタッフが必要な装備、持ち物はもちろん、高山病にならない歩き方、呼吸法、そして富士登山の見どころを丁寧に解説、指導します。



山小屋に2泊するのんびりスケジュールは、日本最高所剣ヶ峰を含むおはちめぐりを可能にし、高所で仰ぐ星空、2度の日の出が望める他にはない特別な富士登山プログラムです。

回 7月22日(金)～7月26日(火) 4泊5日

回 6月中旬申込受付開始。熊本YMCAのWebページ内でお知らせします。ご検討の方は、事前に質問にお応えします。些細なことでもご連絡ください。

場 YMCA阿蘇キャンプ Tel 0967-35-0124 担当:堤

2022年度熊本YMCA定時会員大会のご案内

2022年度熊本YMCA定時会員大会を開催します。参加のご案内は維持会員の皆様に別途お知らせいたします。

回 5月27日(金) 18:30～ 因 第1部 礼拝、第2部 表彰式、第3部 報告
場 YMCA本部事務局 Tel 096-353-6397

回日時 場会場 因内容 費参加費 因定員 因参加条件 因持ち物 因対象 催主催 締締切 回申込 問問合せ 他その他

COM・PASSION II

おもいやりとやさしさ Vol.7

総主事 光永 尚生



グローバリズムにかかせないもの それは平和

世界が一変したロシアによるウクライナ侵攻から、わずか2カ月ですが、1,000万人が避難し、420万人は国外に避難しています。ヨーロッパYMCAが、即座に避難者支援を開始し、その一環で、日本への避難者の支援活動がなされています。日本YMCA同盟は、国内のYMCAと協働

して、避難されてくるウクライナの皆さんに対して、可能な限りの支援活動を継続しています。4月の時点で60名を超えています。

この未曾有の事態の中で改めて考えると、グローバル・サプライチェーンの考え方は、「平和」が前提でした。平和が維持できなくなり、90年代以降、「これからはグローバルだ」と推進した結果、内需低迷、企業のためのグローバルに見える日本型の考え方は、「大転換」を迎えるかもしれません。つまり、グローバリズムは、「平和」が前提でした。一方で、「平和の障がい」になり得る「国家」「国境」「国民」を否定しようとする力が働きます。しかし、すべての国が平和主義ではなく、国と国、国の利益と利益が衝突してしまいます。ある種の、文明の衝突が起

こってきます。今までは、平和を維持するために、英、米などが覇権国となり、グローバリズムを主導してきました。その過程で、覇権国以外の国も力をつけてくるため、今のようにアメリカの力が相対的に低下しているようなときに、新しい転換の時代となっていくと思います。

まさに、世界の激動の瞬間に私たちは立ち会っています。この中で、私たちのYMCAは、「連帯」を進め、互いを認め合い、相手を尊重し、愛と奉仕の精神に基づく活動を大切にするという基本に立ち返ります。私たちのYMCAは、どんな時代にあっても、平和をつくり出す働き人の集まり=Peace Makerとしての大切な働きを、見失わないようにしてまいります。皆様の平和への祈りに合わせていただければ幸いです。

R | E | P | O | R | T

[3月31日⇒ 4月11日]

自 然

富士山の雄大な自然を訪ねる 4日間の旅

3 13 15

日本一の標高を誇る富士山は、熊本から遙か遠く、その目で見たことがない人も多いと思います。夏の登山シーズンに山頂を目指す様子がテレビなどで報道されますが、実は富士山の自然の奥深さは山頂ではありません。裾野には多様な生き物が住む美しい自然があり、地下には300を超える溶岩洞窟が存在すると言われ、未開の洞窟も少なくありません。

3月31日(木)～4月3日(日)に実施した「富士山の雄大な自然と神秘的溶岩洞窟を訪ねる4日間の旅」では、熊本から19名がこの富士山の自然と神秘的

溶岩洞窟を訪ねる旅に出かけました。

初日、降りたての雪で輝く美しい森の中を2時間歩き、一般の観光洞窟ではない、知られざる秘密の洞窟へ。3時間にも及ぶ洞窟内部探索では、様々な形の溶岩鍾乳、氷柱、コウモリに出会い、天窓からの美しい光、真の闇、その静けさを体で感じました。2日目は迷路のような溶岩樹型の数々に入りました。

7月には「5日間の富士登山キャンプ」を予定しています(2面に関連情報)。共に日本最高所富士山山頂に立ちましょ。

職員 堤雄一郎



国 際

熊本YMCA学院日本語科 留学生が入学

4 10 16

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、日本政府が外国人の入国を制限。YMCA学院日本語科においても2019年の10月期を最後に、留学生のほとんどが日本に入国できない状態が続きました。2019年度は104名であった在籍生も、2021年度は25名に減少。しかし、今年3月1日の入国制限緩和後、徐々に留学生の入国が進み、57名の入学予定者の内17名が入国を果たしました。

4月14日(木)、中国、韓国、ベトナム、ネパール、タイなど9カ国にのぼる多国籍な新入生が入学式を迎えることができました。新入生代表の挨拶に立つ

たロサレス・メリー・グレースさん(フィリピン出身)は、本来2020年4月期に入学予定であったため、実に2年越しの入学。「ようやく日本に来ることができた。一生懸命日本語と日本の文化を学び、日本語教師となって自身が学んだことをフィリピンの人々に伝えたい」と力強く語りました。

今後40名が随時入国予定であるものの、国際線の減便などにより全員が入国するには5月までかかる見込みです。全員が1日も早く無事に入国できることを心より願っています。

職員 尾道一幸



研 修

新入社員が体験 ボランティア入門講座

3 11

4月5日(火)、新入社員らを対象に「第27回新入社員ボランティア入門講座」を開催しました。本講座は、企業人のボランティア精神を育む最初の機会として、障がい者の自立を支援する「NPOヒューマンネットワーク熊本」より障がい当事者を講師に迎えて行う企業合同研修会です。講座には5企業・団体より25名が参加し、食事介助体験と高齢者疑似体験、車いす操作に挑戦しました。

食事介助では、2人がペアとなって食事を食べさせ合い、介助をする側、される側、それぞれの立場を体験。車いす体験で実際の車いすに試乗した参

加者は、わずかな傾斜や段差による不便さを感じていました。高齢者疑似体験で専用のスーツを着用した新入社員たちは、腰や足の曲げ伸ばしの不自由さ、視界の悪さなど、いつもと違う自分の身体に戸惑っている様子。地域環境のあり方や日常生活の援助のあり方を学びました。

参加者からは、「物理的なバリアだけでなく、精神的なバリアも世の中にはあるのだと思った」「街中で助けが必要そうな人を見かけたら、気軽に声をかけられるような人になりたい」などの感想が寄せられました。

職員 辻健太郎



専門学校

チーム医療の一員を育成 県医師会との協定書調印式

3 4 11

熊本YMCA学院医療秘書科は、今年で開設29年目です。日進月歩の医療業界で即戦力となる人材を輩出するため、社会のニーズに沿った病院事務職の養成に力を注いできました。新たな取り組みとして日本医師会認定の医療秘書養成校の認可を取得するため、熊本県医師会との協定を締結しました。今年度中に熊本県医師会を通じて日本医師会へ申請を出し、県内初の認定を目指します。

4月11日(月)の協定書調印式で、YMCA学院長の光永尚生さんは、「医療現場や社会のニーズの変化に柔軟に対応し、専門性を持ち、地域の課題と向き

合う人材を育てたい」と挨拶。熊本県医師会会長の福田稠さんは、「実績ある学校と協定を結ぶことができた。直接、医師の傍でお手伝いをしてくださる医療秘書が優秀であれば患者さんも適切で優しく温かい医療が受けられる。地域医療を支える大きな働きができる」と述べました。

申請に向けて日本医師会が定めたカリキュラムへ移行。学生たちは地域医療に携わる医師から授業を受けることのできる教育環境で知識を習得し、チーム医療の一員として重要な役割を担う人材として成長します。

職員 上妻明美



スプリングキャンプ

この春、デイキャンプから4泊5日のスキーキャンプまで、子どもたちがキャンプを楽しみました。

みんなで
かけっこだ！



つくしを発見！



いちご
おいしいね



私はいちごに
なっちゃったー



オリジナル
エコバッグを
つくったよ



雄大な北海道で
スキーに挑戦



みんなの
目玉焼きができた！



キャンプと言えば
キャンプファイヤー



経済的な困難を抱える子どもたちのために 参加費減免制度のご案内

公益財団法人熊本YMCAはすべての人々がYMCAのプログラムに参加できるように、参加費の減免制度を設けています。ひとり親世帯や、特別児童扶養手当受給世帯等、YMCAのプログラムに、経済的理由により参加できない子どもたちに対して、費用の一部を減免します。

参加できるプログラム

●通年プログラム

ウエルネスプログラム(体操・水泳・サッカー、野外活動、キャンプなど)、語学教育プログラム(英会話)、アフタースクール、各種講座など

●季節プログラム

短期講習会(春期・夏期・冬期)、シーズンキャンプ・デイキャンプなど

●その他

発達障がい児支援プログラム、YMCAが行う諸行事
※参加費減免制度の利用には、書類の提出・職員との面談が必要です。
申請方法の詳細はWebサイトをご覧ください。



◎参加費減免制度はYMCA年末募金などの尊い寄附によって支えられています。

図お近くのYMCAにお尋ねください。

発行所／(公財)熊本YMCA
〒860-8739 熊本市中央区段山本町4-1
TEL 096-353-6397(代)
発行人／光永 尚生 編集人／辻 健太郎
定価60円 購読料は会費に含む

www.kumamoto-ymca.or.jp



Facebook

熊本YMCAの使命

共に生きる社会 生涯学習の推進 ボランティア活動
地球環境の保全 ウエルネス活動 平和な世界

2022年度基本聖句

イザヤ書 40章31節

主に望みをおく人は新たな力を得 鷲のように翼を張って上る。
走っても弱ることはなく、歩いても疲れぬ。

わたしと聖句

ルカによる福音書 19章42節

「もしこの日に、お前も平和への道をわきまえていたなら……。しかし今は、それがお前には見えない。」

平和への道

エルサレムの街を眺めながら、イエスが語った言葉です。当時のエルサレムは、たくさんの人々が賑わい、盛んに商売が行われていました。しかし、残念ながら人々は、神を忘れ、自分たちが豊かになることだけを考えていたのです。

それは、「平和への道」ではないとイエスは言います。自分たちのことばかり考えていては、本当の平和は決してやって来ないのです。それはそうでしょう。自分たちだけ豊かになっても、その一方で、飢えや貧困の中に置き

去りにされる人たちがいれば、その人たちは必ず不満を抱き、社会を変革しようとするに違いないからです。

一部の人だけに都合のよい「平和」は決して長続きしません。本当の平和とは、すべての人が大切にされ、人間らしく幸せに生きられる社会を実現することであり、そのような社会を実現することこそが「平和への道」なのです。

ローマ教皇フランシスコは、「一人で救われることはできません。みんなで一緒に救われるのです」と言いました。一部の人だけが幸せになっても、それは本当の救いではない。すべての人が大切にされ、自分らしく生きられる社会を実現したときにだけ、わたしたちは本当の平和をかみしめ、幸せに暮らせるということです。「平和への道」は、共に生きる道だといってもよいでしょう。自分の幸せだけを追い求める滅びの道から離れ、すべての人の幸せを願って生きる「平和への道」を選べますように。

カトリック宇部教会
片柳弘史